

## 論理的思考力をはぐくむ 説明的な文章の学習指導の在り方 — 結論から読み取る実践を通して —

茨城県筑西市協和中学校  
中島 聡

### はじめに

平成十九年度茨城県で開催された「第五〇回全関東地区 中学校国語教育研究協議会 茨城大会」で発表した内容に基づき、指導の実践を報告するものとする。実践は、第二学年でおこなったが、三省堂出版による中学一年『現代の国語1』から「クジラの飲み水」を教材として実践にあたった。

### 一 主題設定の理由

中学校学習指導要領（平成十年十二月文部省）国語の（第二学年及び第三学年）2内容C読むことに「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ」とある。さらに、平成十四年に実施されたPISA調査では日本の読解力の低下が報じられた。

そこで本実践では、説明的な文章の学習において、論理的思考力を育成するためには、どのような指導が有効であるかを究明

したいと考え、本主題を設定した。

### 二 研究の概要

#### (1) 研究のねらい

説明的な文章の学習において、論理的思考力を育成するためにはどのような指導が有効であるかを究明する。

#### (2) 基本的な考え

#### 論理的思考力

『教育学大辞典』では、論理的思考力を次のように定義している。「単数あるいは複数の条件（命題）から、ある必然性をもったいくつかの結論を導き出すための思考の過程をいう。」これは、ある物事を筋道立てて考える力であると考えた。

ほとんどの説明的な文章は、論理的に書かれた筋道の通った文章になっている。その文章構成を読み取る活動を繰り返すことで、筋道を考える力が育成できると考えた。

### 三 指導の実際と考察

#### (1) 単元名 クジラの飲み水

#### (2) 目標

- ① 「クジラの飲み水」の読みの活動を通して、文章構成をとらえ、自分の表現に生かそうとする。（関心・意欲・態度）
- ② 結論から読み取る活動を通して、筆者の論の展開の仕方を理解することができる。（読むこと）
- ③ 指示語、接続語に注目し、段落の関係を考えることができる。



(言語についての知識・理解・技能)

### (3) 教材について

本教材は、クジラがどのようにして飲み水を得ているのかについて書かれた説明的な文章である。接続語や指示語を巧みに使いながら、論理的に書かれ、文章構成もすっきりしたものである。

また、本教材をなぜ二年生で取り上げたかについては次のような理由からである。

第一に、文章の長さが適当であることである。第二に、内容がとらえやすいということである。難易語句も多くはない。第三は、生徒が興味関心をもちやすい内容であることである。「クジラの飲み水」という題名から、クジラが海水から水分を得ているように想像できるが、実際にはそうではないので、驚きや疑問をもちながら読み進めていけると考えた。

### (4) 授業の実際

#### 【初発の感想】

ほとんどの生徒は、「クジラは体内で水をつくる」ということが理解できている。これは、本教材の結論でもある。しかし、数名の生徒は違う観点から感想が書いてあった。

#### 【文章構成をとらえる】

本教材、本文を一枚の用紙にまとめることによって、文章構成がとらえやすくなると考えたからである。

まず、問題提起部分である序論を、次に問題の答えとなる結論を見つけさせた。問題はすぐに見つけ出すことができたが、結論を短時間で見つけられなかった生徒が多少いた。結論部分の文頭の「このように」という言葉に着目できた生徒は、短時間で結論を見つけたことができた。しかし、最初から順に丁寧に読んでいった生徒は、なかなか結論が見つからずに、多くの時間がかかった。また、結論を見つけ出せなかった生徒の初発の感想を見てみると、「クジラは体内で水をつくる」ということに触れていないことがわかった。

#### 【序論→結論→本論の読み取り】

文章を書く際にも、結論を頭に入れて書き始める。また、物を作るときにも完成品のイメージが頭にある。つまり、結論部分となるものを頭に置きながら、文章を書いたり、物を作ったりする。つまり、序論にある問題提起文を押さえ、次に結論を押さえることで、文章構成が理解しやすくなると考えた。

本論の読み取りでは、結論を導くための説明が順序立てて書かれているので、結論と本論の記述を同じ色のペンで結びつけながら読み進めていった。

#### 【読み書き関連学習】

読み取り後、全文を要約した文章を書かせた。その際に、結論部分から書き出すこと、そ

の後根拠となる文を書くように指示した。この要約文の活動をおこなうことで、教材文がより理解できたという生徒が多く見られた。

論理的思考力を育成するという視点から見れば、読み書き関連学習が有効であることは、他の論文からも明らかである。中でも青木幹勇氏は著書「第3の書く」の中で、読み書き関連学習のメリットについて多くの点を指摘している。

本実践では、読むことについての研究をより深めるということから、読み書き関連学習について触れてはない。

## 四 成果と課題

序論の次に結論を読み取り、その後結論の裏付けとなる本論の展開を読み取るという流れをとることで、短時間で文章構成や内容の把握ができることがわかった。

課題として、生徒がさらに意欲的に取り組める説明的な文章の読み取り方の研究を進めていきたい。

なかしま さとし 平成十八、十九年度と全関東地区茨城大会の読むこと（説明的な文章）における推進委員として、多くの先生方から論理的思考力を育てることについて学ぶ。「読むこと」の楽しさを生徒に学ばせたい。